

勇士の名を振るはむことを慕ふ歌一首 并せ
て短歌

四一六四番

ちちの実の 父の命 ははそ葉の 母の命 凡
ろかに 心尽くして 思ふらむ その子なれやも
ますらをや 空しくあるべき 梓弓 末振り起
こし 投矢持ち 千尋射渡し 剣大刀 腰に取り
佩き あしひきの 八つ峰踏み越え さしまくる
心障らず 後の世の 語り継ぐべく 名を立つ
べしも

四一六五番

ますらをは 名をし立つべし 後の世に 聞き継
ぐ人も 語り継ぐがね